

出席委員あて内容確認済み

## 令和5年度第1回

# 札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会

## 会 議 録

日 時：2023年7月19日（水）午後3時開会  
場 所：札幌エルプラザ公共4施設 2階 環境研修室1・2

〔 開会に先立ち市立高校環境探究プロジェクト作成動画  
「シマエナガちゃんとななぼうっ！！」の上映 〕

## 1. 開 会

大沼会長 小・中学校は1学期のすごく忙しい中、大学もまた前期の試験などがこれからある中、皆さんそれぞれ忙しい時期にお時間をつくってお集まりくださり、ありがとうございます。

ただいまから、令和5年度第1回札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を開催したいと思います。

まず、事務局から連絡事項等をお願いいたします。

事務局（飯岡環境政策課長） 環境政策課長の飯岡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、今年度1回目の会議ですが、前回の会議後、新たに委員をお願いさせていただいております方がいらっしゃいますので、ご紹介させていただきます。

まず、札幌市PTA協議会副会長の村形亜佐美様の役員任期満了に伴いまして、同協議会監事の先名孝亘様に、また、公益財団法人北海道環境財団の内山到様につきましては、同財団の組織改編に伴いまして、このたび、企画事業課長でいらっしゃいます山本泰志様に、それぞれ今年5月から委嘱させていただいておりますことを報告いたします。

なお、今年度、新たに2人の委員にご就任いただいておりますことから、後ほど、本日出席の委員の皆様全員に簡単に自己紹介をお願いできればと考えてございます。

委員の出席状況ですが、過半数に達しておりますので、推進委員会設置要綱第5条第2項の規定により、本委員会が成立していることをご報告いたします。

続きまして、議事に先立ちまして、札幌市環境局環境都市推進部長の上田よりご挨拶を申し上げます。

上田環境都市推進部長 本年4月に着任いたしました環境都市推進部長の上田でございます。

開会に当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中をご出席いただきまして、ありがとうございます。

これまでの3年間、コロナ禍による各種事業の中止、変更、それから、環境プラザの休館など様々な苦難があったところでございますけれども、コロナがようやく5類に移行しまして、その後は多方面で様々なイベントが数年ぶりに開催されるなど、明るいニュースを目にするようになったところでございます。

私どもといたしましても、基本的な感染対策はしっかり徹底しながら、環境教育、環境学習の関連事業を進めてまいりたいと考えております。

先ほど、動画でも触れましたけれども、今年の4月15日、16日に開催されましたG

7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合では、各国の多くの関係者のご参加の下、有意義な議論が交わされたところでございますけれども、それとともに札幌の魅力を国内外に発信することができました。

また、会合と同日に開催しました環境広場ほっかいどう2023には多くの方々にお越しいただきまして、市民の皆様への環境に対する関心を高めることができたと考えております。

会合の開催を契機としまして、市民の環境保全に関わる理解の促進、意識の醸成、さらには具体的な行動変容につなげていくことが大切でありまして、とりわけ、札幌市の未来を担う子どもたちへの環境教育、環境学習の重要性はより一層高まっているものと考えております。

今後も教育委員会や関係機関の皆様のご協力を仰ぎながら、環境教育、環境学習の一層の推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、皆様より忌憚のないご意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（飯岡環境政策課長） 続きまして、委員の皆様にご自己紹介をお願いできればと思います。

会長、副会長を先にして、反時計回りでお願いいたします。

大沼会長 会長を仰せつかっております大沼と申します。

拙い司会ですが、よろしくお願いいたします。

石澤副会長 副会長を仰せつかっております北翔大学短期大学部の石澤でございます。

昨年度から推進委員会のメンバーに加えさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

野崎委員 八軒小学校教頭の野崎と申します。

結構長く委員を務めさせていただいております。今日もよろしくお願いいたします。

福岡委員 本郷小学校教頭の福岡と言います。

久しぶりの会議なので、皆さんから新しい情報を得ながら、子どもたちに還元できるいろいろなと学んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

先名委員 皆様、初めまして。札幌市PTA協議会監事を務めております先名と申します。

ふだん、NPO法人教育フォーラム、恵庭市のえこりん村でえこりん村学校の運営理事をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

久保田委員 初めまして。久保田法順と言います。

市民公募委員としてこの会に参加させていただいております。多分、コロナの関係で任期が延びて、今は4年目かと思っておりますけれども、よろしくお願いいたします。

伊藤委員 伊藤英二と言います。

私も公募委員で、4年目になります。最初の2年がほとんどなくて、去年から本格的に参加ということで、また余計なことってしまいそうな気がするのですが、よろしく願います。

山本委員 北海道環境財団の山本と申します。

財団に入って23年目になるのですが、ほかにもやるのですが、主に環境教育を担当してまいりました。

スポットで授業をさせていただいたり、学童で1時間とか2時間のプログラムをさせていただくこともあるのですが、あとは、釧路の自然再生事業というのが2005年ぐらいからずっとやっているのですが、そこで湿原を使って環境学習をしていこうということを2007年からずっと携わっています。年間4校とか5校とか、年間のカリキュラムに関わらせてもらって、いろいろと活動してきています。

また、中学校2年生と小学校3年生の娘がおりまして、札幌市の学校ですが、いろいろもってくるものもあったりして、そういったものでもいろいろと勉強させてもらえたらなと思っています。よろしく願います

事務局（飯岡環境政策課長） 続きまして、私ども事務局のほうをご紹介させていただきます。

事務局（上田環境都市推進部長） 改めまして、環境都市推進部長上田でございます。どうぞよろしく願います。

事務局（飯岡環境政策課長） 改めまして、環境政策課長の飯岡でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局（谷内環境教育担当係長） 環境政策課環境教育担当係長の谷内と申します。よろしく願います。

事務局（吉田教育委員会企画担当係長） 私は、教育委員会教育課程担当課の吉田と申します。よろしく願います。

事務局（宮西環境プラザ主任） 札幌市環境プラザ主任の宮西涼美と申します。本日は、どうぞよろしく願います。

事務局（飯岡環境政策課長） 以上でございます。

会長、よろしく願います。

## 2. 議 事

大沼会長 それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

今日の議題は1点で、（1）令和4年度環境教育関係事業の実施結果及び令和5年度同事業の実施予定についてです。

まず、事務局からご説明をいただいて、その後、委員の皆さんからご意見等をいただきたいと思います。

では、よろしく願います。

事務局（飯岡環境政策課長） それではまず、資料の確認をさせていただきます。  
まず、次第でございます。

そして、資料1が委員名簿、資料2が環境教育関係事業について、そのほか、参考資料といたしまして、参考の1つ目として、札幌市環境副教材及び教師用手引書、参考の2番目として、令和4年度環境教育へのクリック募金の事業報告書、参考の3番目として、エコライフレポート、冬休みエコライフレポート2022の取組結果について、夏休みのレポート、そして小学校1年生から3年生用、4年生から6年生用、中学生用、認定証の例、参考の4番目として、校外学習用バスの貸出し利用校ご紹介、参考の5番目として、令和5年度さっぽろっ子環境ウイークの実施について、参考の6番目として、令和4年度環境教育・子どもワークショップの概要、参考の7番目として、さっぽろこども環境コンテスト2022実施報告書、参考8番目として、環境広場ほっかいどう2023開催報告書、参考9番目、補足資料、G7子ども行動宣言という形でご用意させていただいてございます。落丁等がありましたら、お申しつけください。

それでは、令和4年度の環境教育関係事業の実施状況及び今年度の予定につきまして、係長のほうからご説明申し上げます。

事務局（谷内環境教育担当係長） それでは、お手元の資料2、環境教育関係事業についてご説明させていただきます。参考資料のパンフレットなどもご覧いただきまして、補足しながら説明させていただければと思います。

なお、環境局で実施している事業を私から、教育委員会の事業は教育委員会の吉田係長から、環境プラザの事業については環境プラザの宮西主任から、それぞれ説明させていただきたいと思います。

まずは、資料2、冒頭の「はじめに」についてでございます。

こちらは、2019年に改定した札幌市環境教育・環境学習基本方針の取組の四つの柱を示したものです。

1ページ下段に記載がありますが、（1）学校などの教育機関などで行われる環境教育の推進、（2）環境人材の育成、（3）環境教育・環境学習の場と機会の充実、（4）普及啓発のための情報発信・広報と行動の後押しとあり、環境教育関係事業は、これら四つの取組に基づいて実施していることから、各事業それぞれの取組ごとに区切りまして、昨年度の実施結果と今年度実施予定について順に説明させていただきます。

では、早速説明させていただきますので、2ページをご覧ください。

まず、（1）の「ア 環境副教材・教師用手引書」についてです。

お手元に冊子を幾つかお渡ししておりますけれども、毎年度、市立小学校の新1、3、5年生の全児童に環境副教材を配布しており、それぞれ2か年にわたって利用いただいております。また、併せて教師用手引書も作成しています。より利用しやすい副教材や手引書とするために、理科、社会科、家庭科、生活科、道徳の各担当の教員によるワーキンググループを組織して、毎年度、改訂作業を行っております。

次に「イ 環境教育へのクリック募金」についてです。

これは、インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、現在7社ある協力企業の環境活動を紹介しており、閲覧数に応じた金額を協力企業からご寄付をいただきまして、それを基に環境教育教材を購入し、希望する学校へ寄贈しています。

昨年度は、計40校に、手回し発電機、酸素や二酸化炭素濃度を測るガス検知管、あとはトマトや枝豆の野菜の苗などといった、環境教育教材を寄贈しております。

今年度は計74校と昨年度に比べて約2倍の申込みがあり、寄附金額を大きく上回ってしまいましたことから、やむを得ず抽選により45校の寄贈校を選定しました。今後、順次、寄贈を行う予定です。

なお、クリック募金のホームページ上では、寄贈された環境教育教材が各学校においてどのように活用されたのかを事業報告書として紹介しております。お手元にも参考資料として用意させていただいております。

また、委員から、協力企業についてもっと周知したほうがよいというご意見をいただきまして、昨年度は、啓発パネルを作成して環境広場さっぽろのイベントで展示したり、「さっぽろ経済」という札幌商工会議所の会報誌への記事を掲載するなど啓発を行っております。

次に、3ページの「ウ エコライフレポート」についてです。

これは、子どもたちが声かけ役になって、家庭におけるエコ活動を促す取組として、平成19年度にスタートした事業です。夏休みと冬休みの前に、市立小・中学校の全児童生徒に対して、家庭で取り組むエコ活動を選んで実践できるチェック表を配布します。

昨年度の冬休みは、札幌市が市内の温室効果ガス排出を2050年に実質ゼロとするゼロカーボンシティを宣言したことを踏まえまして、「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズとして、節電やごみの分別に取り組んでもらう内容としました。

また、レポートには、資料の絵にも載っているのですが、今年の4月15日、16日にG7札幌大臣会合が開催されて、世界のリーダーが環境について話し合い、よりよい未来にするための会議が行われるということを知ってもらうための記事を掲載しております。

取組の終了後は、学校単位で子どもたちの取組結果を二酸化炭素削減効果に換算して、これを記した認定証を配布しております。また認定書の中では「他にもこんな取組をしてくれました」という欄を設けて紹介しています。

もうすぐ夏休みですけれども、今年度の夏休みは、引き続き「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズに、節水や節電に取り組んでもらう内容とするとともに、熱中症対策に関する記事を掲載しました。

参考資料にも載っていますので、併せてご覧いただければと思います。

4ページの表にありますが、昨年度のエコライフレポートの取組率は、小・中学校全体で、夏休みが81.9%、冬休み85.9%と、例年から数字を下げてしまっています。

これは、紙で配っているレポートを、学校で回収、保管して、これを環境局において集約・集計するという一連の事務作業の負担を軽減するために、子どもたちは学校で1人1台のタブレットを配布されておりますので、各児童生徒がタブレットのグーグルフォームを使用して取組結果を入力してもらう形式に変更したことが影響しているのではないかと考えられます。

これを初めて行った昨年の夏休みは、児童の入力した情報が環境局に直接届くようなシステムだったため、学校の先生が生徒の入力や取組の状況を把握できないという問題点がありました。そのため、冬休みは、システムを改良いたしまして、学校の先生が生徒の入力・取組状況を確認できるようにするとともに、児童の入力結果の一覧表のデータを学校を通して環境局に送付してもらうという方法で行ったのですが、操作の不慣れがあったのか、一部の学校から一覧表が送付されず、取組学校数が減ってしまうという結果になりました。

これを踏まえまして、今年度は、入力マニュアルを改訂するなど、学校をフォローしていくことで取組学校数を増やしていきたいと思っております。

次に、「エ 校外学習用バス貸出」についてです。

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小・中学校を対象に校外学習用バスの貸出事業を行っています。

学校現場のニーズなどを踏まえまして、平成28年度からは、市外の近郊や民間施設も見学対象施設に加えて、太陽光発電や風力発電の設備、液化天然ガスの基地などを見学コースに組み込んでいるほか、各学校が独自に希望する見学先についても対応しております。

お手元の参考資料に利用実施例を紹介させていただいております。

昨年度は、新型コロナウイルスの対策のため、児童生徒が座席間隔を空けて乗車できるよう、1台当たり25名の定員として、10月1日から11月30日の期間に35校に貸出をしました。今年度は、できるだけ多くの学校に貸し出せるようにということで、1台当たりの定員をコロナ禍以前の状態に戻して、貸出期間を7月から12月中旬に設定しました。全部で94校の応募があったことから、抽選により52校を貸出対象校としましたが、この春の新型コロナウイルスの5類引下げに伴う観光によるバスの需要増加や、バス台数や運転手が不足しているなどの問題からバスの貸出業務に応札するバス会社がおらず、入札不調になってしまったところです。

このため、各バス会社への聞き取りを実施したところ、11月以外のバスの確保が厳しいということで、7月から10月、12月に校外学習を予定している各学校には、個別にバスの調達、確保をしていただくようお願いしたところです。

また、11月に校外学習を予定している学校につきましては、各学校に希望を聞き取った上で、再入札を実施することを検討しております。

次に、5ページの「オ 学校での出前講座の実施」についてです。

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環としまして、市職員が依頼に基づいて地域

に出向き、所管事業について分かりやすく説明を行う出前講座を実施しています。

近年は、SDGsの普及や地球温暖化、気候変動への関心の高まりにより、これらの講座への依頼が増えており、総合学習などの授業の一環として活用されています。

5ページから6ページにかけて、昨年度までの実績の表を載せておりますけれども、昨年度もコロナ禍の中でありましたが、多くの方にご利用いただきました。

出前講座は、私たちが直に子どもたちに気候変動について伝えることができ、また、それに対する反応を見ることができる貴重な機会でありますことから、今後も引き続き続けてまいりたいと思っております。

次の「カ 環境に関する全園・全校の取組」については、吉田係長から説明いたします。

事務局（吉田教育委員会企画担当係長） 環境に関する全園・全校の取組をお話しさせていただきます。

教育委員会では、札幌らしい特色ある学校教育の推進ということで三つのテーマがあるのですが、テーマの一つの環境に資する取組としまして、「さっぽろっ子環境ウイーク」というものを設定しております。

こちらは、環境首都・札幌の宣言日である6月25日の前後2週間を期間としまして、各園、各学校に、学校の取組の中の環境教育に資する部分を見詰め直していただきながら、自校の取組を充実、推進していただくことを目的に設定しております。

昨年度は、G7の会合もあるということで、先ほどご覧いただいた、高校生がプロジェクトを立ち上げて動画を制作するという取組も行いました。

今年度につきましては、資料のインデックスの5番のところから各園・学校に通知した文章があるのですが、先ほど皆さんにご覧いただいた動画も起点にしながら、改めて、「さっぽろっ子環境ウイーク」の中で、各園、各学校が環境教育の充実に資するよう取組を見直していただきながら、現在、各学校に取組をしていただいているところです。

各学校に取り組んでいただいたことに関しては、ホームページ上に公開していただくなどしながら、環境教育の部分を周知していきたいと考えているところです。

事務局（谷内環境教育担当係長）（1）の説明は、以上です。

次に、「（2）環境人材の育成」について説明いたします。

まずは、環境プラザの関係の事業につきまして、環境プラザの宮西主任からお願いします。

事務局（宮西環境プラザ主任） 「ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣」についてご説明いたします。

市民団体や町内、会学校などに対して、環境に関するアドバイザー、リーダー、専門家や活動の補助員を派遣する制度になります。

札幌市環境保全アドバイザー派遣制度は、地球環境や自然保護、リサイクル、ごみ問題など、様々な環境分野の研修会や学習会に専門家を派遣しています。

令和5年6月1日現在では、9人のアドバイザーにご登録をいただいております。

また、札幌市環境教育リーダー派遣制度では、野外での活動を通して植物や野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や、地球温暖化とエコライフ分野の指導者、解説員を派遣しております。リーダー派遣制度では、令和5年6月1日現在は23名のリーダーにご登録をいただいています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら自然体験活動や研修会を再開、また新規実施する団体が増えてきていましたので、例年利用している団体に加え、小学校や企業等の新規団体等も増加傾向にあります。

また、複数のリーダーの派遣が必要となる川での水生生物観察会や、幼稚園、保育園における自然体験会などの申込みが増加していることから、今年度、令和5年度は、来年度から新規に活動していただけるリーダーを新たに募集する予定です。

派遣実績は、下の表でまとめてありますので、ご覧いただければと思います。

令和4年度につきましては、18件、リーダー派遣につきましては64件の派遣となっています。

続きまして、「イ こどもエコクラブ」についてもご説明いたします。

公益財団法人日本環境協会が実施をしているエコクラブの札幌市内における事務局を担っております。こどもエコクラブへの登録団体、また、これから環境に関する活動を始めようとする団体へ情報提供を行っております。

令和3年度から環境プラザが運営するこどもエコプロを立ち上げ、さっぽろあそエコ団として活動を行っております。

今年度は、札幌に限らず、市内外の川や公園、山、海などで自然体験活動4回を含む全9回の実施を予定しております。

今年度のテーマとしては、季節ごとに変化する自然の美しさ、楽しさを継続的に体験する内容をメインで企画して進めております。

次のページに行ってくださいまして、「ウ 指導者向け研修」に移ります。

教員や保育所の方など、子どもたちへ伝える立場の方を対象に、環境教育や環境保活動をテーマとした講座を実施しています。

令和4年度は、児童会館職員100名に向けて、環境プラザの見学ツアーを通じた職員の環境保全の意識向上を目指すとともに、環境プラザの活用方法を紹介し、児童会館での利用促進を図りました。

今年度も児童会館と共催で公益財団法人キープ協会さんと連携をした体験活動に関する研修を企画しています。

また、そのほか、幅広い指導者の方を対象として、体験活動における危機管理やプログラムデザイン等の講座も企画・検討をしております。

事務局（谷内環境教育担当係長） 次の「エ 環境教育・子どもワークショップ」については私から説明します。

これからの未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な

行動につなげるきっかけとなることを目指した、「環境教育・子どもワークショップ」を、G7札幌大臣会合の開催記念事業として、令和5年1月21日と28日に各日5か所ずつ、計10か所の児童会館に通う小学生を対象に開催しました。2日間で計62名が参加しました。

ワークショップは、本部のメインファシリテーターから児童会館の各会場にオンラインでプログラムを配信して、各会場では、現地のファシリテーターの誘導により、子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで各会場とも意見交換をするなど、オンラインと対面をミックスして行いました。

あわせて、環境教育に興味があり、ワークショップなどのスキルを身につけたい高校生、大学生などの若い世代の人材育成にも同時に取り組むこととし、希望する若者を対象にファシリテーターなどの養成研修会を実施し、受講した12人には、ワークショップの運営スタッフの一員として活動してもらいました。

ワークショップの中で作成したグラフィックレコーディング、参考資料のほうにも写真が載っておりますが、これは議論の内容、提案を絵や図形を使って模造紙にまとめたものを言うのですが、このグラフィックレコーディングを、令和5年2月の雪まつり期間中に札幌駅前地下歩行空間において、また、4月15日、16日に開催した環境広場ほっかいどう2023において、それぞれ展示を行いました。

こちらは、例年、参加者の満足度の高い取組であり、今年度も同様のスタイルで引き続き実施する予定です。

アンケートや開催結果報告は参考資料にもございますので、ご参考にしていただければと存じます。

では、次の「オ 教員に向けた研修」につきましては、吉田係長から説明いたします。

事務局（吉田教育委員会企画担当係長）教員に向けた研修では、毎年、環境をテーマにした教員研修が行われているところですが、今年度も、教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、環境教育へ役立つ施設の活用といったテーマですとか、SDGsの基礎などといったテーマにおきまして、観光教育に関する専門的研修を実施する予定でございます。今年度も延べ60人以上の教員が受講する見込みとなっております。

以上です。

事務局（谷内環境教育担当係長） 四つの柱のうち（1）と（2）の説明が終わりましたので、皆さんからご意見をいただければと思います。

大沼会長 ただいまの（1）（2）のご説明がありまして、（1）は主に学校などの教育そのもので、（2）は教育する側の人材育成も視野に入れてという展開になっております。

どなたからでも、どの点においてでも結構ですので、ご意見などがございましたらお願いいたします。

伊藤委員、お願いします。

伊藤委員 何点かお話をさせてください。

バスが今使えないのだなと知ったのですが、とても残念です。

まず、工の環境教育・子どもワークショップについて、冬場に児童会館でされているのは承知しているのですけれども、例えば、夏場に実際にごみを拾うというような経験の中から生まれてくるものがあるのではないかと思います。

今日、実は歩きながら考えたのです。というのは、今、夏場の草刈りが終わりました、業者さんは、草は刈るのですが、よく見ると、道路っぶちにごみがいっぱい落ちているのですね。皆さん、ご覧になったことはありますか。業者さんは、草は刈るけれども、ごみは持っていかないのだなと思ったのです。それは職種が違うからということもあるのかもしれないのですが、残念です。そういうゴミがたくさん捨てられているという現実を子どもたちにも知ってもらおうとしたら、室内の机上でやるのは安全ですけれども、「こんなにごみが落ちているのか」というようなところを実際に見てもらったほうがいいのではないかと思います。

それから、オの教員に向けた研修(教育委員会)で、いつも文句を言うのですけれども、どう考えても60人は少な過ぎます。去年、札幌市の教員は8,000人ぐらいいるという話を聞いたのですけれども、やっぱり、ここでうたっている環境教育を子どもたちに広めようと思ったら、まずは先生方が中身を十分理解しているということも必要なのではないかと思います。

そうすると、厳しい言い方をすれば、市内に小・中学校は約300校ありますので、各校から2人ずつ出たとしたら、ざっと600人はいるということになりますね。それで全体の約8%ぐらいですか。特に今は、若い人も増えていて、20代の教員が相当多いですね。

そんなことも含めると、裾野を広げるというわけではないですが、「関心を持っているよね」とか、「もっと関心を持ちましょうね」というだけで良いのかなと思います。例えば、ウのところ、児童会館の職員の皆さんが100人集まってやられているというのは、児童会館数が約200館なので結構多いですよ。民間の会社だからできているということもあるかもしれませんが、「学校でもできないのか」という素朴な疑問が生じるのです。

ですから、本当に子どもたちにも定着させたいと思うのであれば、指導者の研修ももっと思い切ってやったほうがいいのではないかと思います。

大沼会長 2点ありまして、1点目は、児童会館でやる子どもワークショップを夏場でもっと実践できないかということです。これは事務局の谷内係長にお答えいただいて、2点目の小学校の研修が少ないのではないかという点は、教育委員会の吉田係長からご説明いただきたいと思います。その後、現場の先生をされている委員からお話をいただきたいと思います。

事務局(谷内環境教育担当係長) 子どもワークショップについては、例年、冬場に行っているということもございまして、今お話しいただいたとおり、どうしても室内でオン

ラインでつないでということになってしまいます。今、夏休み中に外で、というお話がありましたけれども、子どもたちに実際に現場で触れてもらうということはすごく大切だと思います。ワークショップではオンラインで各会場をつないで実施しているという性格があるものですから、その中でどういうことができるのかということは考えたいと思っております。

事務局（吉田教育委員会企画担当係長） 教員研修の件についてお答えいたします。ご意見をありがとうございます。

こちらに関しては、この研修を受講していない教員が、環境教育の研修を行っていないということではなくて、例えば、先ほどの札幌らしい特色ある学校教育の部分で環境ということをやっていますので、年数を経過した方の研修などにおきましても環境教育の大切さ等については発信させていただいているところです。

今、ここに挙げた研修は、専門的研修ということで、環境教育へ役立つ施設の活用など、より自分の実践につなげたいというような先生方のニーズに合わせて参加するという選択研修であるため、受講者が60人となっております。こういった部分もより広がってほしいと思うのですけれども、全く環境教育に対する研修が行われていないということではありません。

大沼会長 いろいろな種類の研修があって、割と先生方はひっきりなしに研修に行っていらっしゃるイメージだけはあるのですが、今、福岡委員は強くうなずかれていたので、補足をいただければと思います。

福岡委員 先生方は、環境教育だけではなく、外国語活動であったり、その他のことでもあったりと、教育活動に関する様々な研修を受けております。それに伴いまして講座等もたくさんあり、その中から、先生方は、夏休みであったり、冬休みであったり、自分でセレクトして取り組んでおります。

学校におきまして、環境教育の参加人数が少ないからおざなりになっているかということ、そうでもありません。先ほど、教育委員会からお話がありましたが、「さっぽろっ子環境ウイーク」は、全市の小学校、中学校で行っております。各学校で時期は違うのですけれども、2週間取り組みます。

昨年度、本校で取り組んだことは、開放図書館という地域の方々に来られる図書館もあるのですけれども、そういう図書館を活用して、その司書さんと連動しまして、環境に関わる本を中心に子どもたちに紹介し、地域から来られる方にも紹介するような取組を行いまして、環境を意識してもらうということをしています。また、児童委員会の中で、何か環境にいい取組ができないかというような声かけをした際に、保健委員会からは、節水を呼びかけようであったり、各クラスにおいては、節電に取り組もう、自分たちが体育館に行ったり家庭科室に行ったりという際には教室の電気を消そうというような取組を子どもたち自身が考えながら取り組んでいき、それを支える教員も校内でしっかり研修していくというように、講座を受ければ環境に対する意識はより高まっていくと思っているので

すけれども、学校の中でも、OJTという形で、実際に子どもたちと関わりながら、先輩の先生方の取組を見ながら学んでいるような状況もあります。

先ほど伊藤委員からもお話がありましたが、新型コロナウイルス感染症が5類に下がったということで、本校においても地域での清掃を再開し始めております。ただ、新型コロナウイルス感染症がある中で大人数で行う取組には抵抗感のある保護者や子どもたちもいますので、まずは、一学年が地域の学習をしていく中で自分たちで取り組めることを考えていった際に、子どもたちの中から、何々公園にごみがいっぱいあるよというような声が出てきたので、まちづくりセンターの所長さんと話をしまして、小規模ですけれども、今までやっていたことを再開して、次年度以降は少しずつ広げていこうかなという取組も行っております。

今、新型コロナウイルス感染症の中で大人数で外に出るのは心配だなというところが少しずつ軽減されてきていますので、今までは寂しくなっていた環境教育も少しずつ子どもたちに復活してきているかなという印象を本校では受けております。

大沼会長 両方に対して非常に丁寧にお答えいただきまして、ありがとうございました。

もちろん、研修に参加する数字だけではあらわれない様々な部分があるということで、我々はこれを評価するのは仕事ではないですが、パフォーマンスをきちんと見るという観点では、数字もちろん当然出すけれども、数字に見えないところで、今の福岡委員のご意見や、いろいろな現場の先生方は結果として研修と同じようなことやっているとか、そういうところまで広げて書いていただけるといいと思いました。

それから、地域清掃活動についても、学校でもやっと再開し始めたというご説明がありました。本当にやっとだと思えます。

伊藤委員のご指摘はすごく大事で、とにかく実践するということですね。

実は、私も今、環境省の研究費をいただいてポイ捨てのプロジェクトをやっていて、去年も今年も、うわっというところを見て回っております。これも、学校とか、町内会とか、いろいろなところでやっと動き始めている感じなので、来年はコロナ禍前の水準に戻ってほしいなと思っています。今年はまだ、そろりそろりとやっている感じですね。

児童会館もその中の一つとしてどういうふうに組み込むかというのは、もしかしたら、事務局の側、もしくは環境プラザさんも一緒にお知恵をいただいたりして、学校でのごみ清掃地域、これは学校と町内会で一緒にやられていますが、それを児童会館も一緒にできるだろうかとか、皆さんにいろいろとお知恵をいただければなと思います。

ほかにご意見等はございますか。

山本委員 幾つかあるのですけれども、多くなるので、まずはアの部分だけ言わせていただきます。

環境副教材教師用手引書について、毎年、非常に分かりやすく改訂されていて、すごいなと思う一方で、どのぐらい使われているのか、すごく関心があります。

皆さんも十分ご存じのとおり、環境の要素というのは、教科にはばらけて入ってはいま

す。総合などで環境ということで扱うのであれば結構使いやすいと思う一方、教科から引っ張ってきてこれを使うということは、現場だとなかなか難しいのではないかと思います。

釧路で湿原を使った環境学習の支援を行っていますが、そこでも教科横断的にいろいろ関連づけながらやっていくというのがずっと課題でして、教科横断的に環境というものを学校でどのくらい扱えているのかということに非常に関心があります。

もう一つは、単純に副教材としてということですが、最近、子どもたちは一人一台のタブレットを使っています。タブレットのよさとして関連した情報をひもづけて見ることができるという点がありますので、今後は、紙媒体として必要なものとタブレットとして適するものを分けて、適時、使いやすいようにしていくのもいいのではないかと思います。

大沼会長 まず吉田係長にご回答いただいて、その次に野崎委員をお願いします。

事務局（吉田教育委員会企画担当係長） 今、お話があったように、環境教育に関しては、様々な教科や領域にひもづけながら実施されることが望まれます。

こちらの資料に関しても、中を見ていくと、家庭科とか理科とか様々な内容が書いてあります。また、教員が授業づくりの参考にする教育課程編成の手引というものがあるのですが、そちらにも、この単元ではこういう資料を活用できますよということが記されております。ただ、どれだけの活用率があるかということに関しましては、教科書を中心にとか、それぞれの先生もしくは子どもの実態に合わせてということで、どれだけという数字としては見えていないです。

ただ、今お話があったように、1人1台端末等も充実しているところですので、これから環境教育の充実に資するために効果的な活用方法、効果的な資料は何かといったところは改めて考えていきたいと思います。

大沼会長 続けて、野崎委員、お願いします。

野崎委員 毎年、この話をしているような気がするのですが、これをどのくらい学校現場で使っているのかというのは、教師の意識の差で大分違いがあるというのが正直なところです。

今度、吉田先生を中心につくられる教育課程編成の手引は、教師がどんなプログラムで授業をつくっていくのか、何月にどの授業でどういうことをやるというようなことが書かれているものです。その中に関連するものは必ず含めています。ですから、補助資料的に使っている先生も随分いますが、先ほど山本委員がおっしゃったように、総合の授業で使っているところもたくさんあります。

一方で、今、僕たちはタブレットをこれだけ使っていますので、今後については、やはりタブレットで使えるものもということが必要かと思います。

一つヒントになるのは、私は札幌市防災教育推進委員も昨年度やらせていただいたことがありました。防災教育の委員で去年監修した「さっぽろそなえ箱」というものがありま

す。以前防災教育資料として、紙媒体のものがありませんでした。しかし、一人1台の端末タブレットがいきわたるようになった今回は、タブレット端末で利用できるスライドショーのデータなどを業者さんと危機管理室と一緒に作り直しました。

今後の希望として、そういうものがタブレットなどで使えるようになると、よりいいのではないかと思います。紙と両方あっていいのですけれども、こちらの幾つかの要素をこちらのほうでもというのは、山本委員からヒントをいただいたと思っています。

先ほどは答えなかったのですが、伊藤委員の指摘についても、去年、おとしに同じやり取りをした気がしますけれども、これは毎年受講予定人数で書いています。今年度は60名と書いているのですが、これまでの研修を受けた延べ人数と考えると、累計した数はどうなのでしょう。

毎年、初任研、5年研、何とか研とたくさんの先生方が受けています。今、教員は何人ぐらいいるのか分かりませんが、その中の何%は既に環境教育を受けているので、さらに日々アップデートしていると私は思っているのです。授業をつくるに当たって、教科書だけではなく、いろいろな資料などを使いながらやっています。

そう考えると、教育委員会のお力によって教員に向けた研究や底上げというのは、単年度で見ると60人は少ないかもしれないけれども、意外とやっているのではないかとというのが現場にいる僕の感想です。

大沼会長 ご説明をありがとうございました。

大事なポイントとしては、教材としてタブレットと組み合わせるといえるのは、毎年、すごく丁寧に時間をかけて見直していただいていると伺っていますので、こちらタブレットと組み合わせるといいよというところまで踏み込んでいただけるといいと思います。お願いいたします。

では、久保田委員、お願いいたします。

久保田委員 あまり長くないように、二つの点について意見を述べます。

その前に、事務局の方には本当にご丁寧に分かりやすい資料を準備いただいて、ありがとうございました。お礼を言いたいと思います。

1点目、先ほど、シマエナガの関係の高校生がつくった動画にあったのですが、私は、今日はどんな話が出るのかなと思いながら来たのですが、最近、私に関心を持っているのは食品ロスの問題です。

先ほど、セクション2のところになんか取り上げられていたのですが、子どもたちが環境について身近に感じる一つの大きな切り口は、例えば、学校給食が出ているし、食というのは子どもにとって非常に身近で分かりやすいという側面があるのではないかと思っています。

環境というのは、様々な側面がありますので、子どもたちにいきなり地球環境と言ってもなかなか難しいところがあると思うのですが、毎日学校で給食を食べ、家に帰ってまた食事をしますから、食を一つの切り口にして、自分たちの身近な環境について考えて学び

を深めてもらうというのは、子どもたちにとって身近で分かりやすいし、取組の効果が期待できるのではないかと思うのです。食育と環境の側面で連携してもう少し取組を強化するということは、今まではあまりされていなかったもので、それについては深掘りができるのではないかと思うのです。

先ほど、ぱらぱらと見ていたら、副教科の中にも食について紹介しているところがあります。

例えば、低学年の1・2年生のところには、学校の給食について云々というところが一部あるのです。3・4年生になると、そういったことはあまりなくて、ごみについてとか、水についてとか、そういう大きな学びのテーマがあるのです。

それから、エコライフレポートの項目にも、去年、ほかの委員から地産地消も大事ではないでしょうかという意見が述べられて、それが七つの丸をつけようという項目の中の一つに取り上げられています。

ですから、食べ残しをなくしましょうとか、食品ロスを減らそうとか、いろいろな切り口があると思うのです。様々なことに取り組んでいますけれども、そういったいろいろな観点に波及するところがあるので、そういうことをもう少し考えられればいいかなと思いました。

これは蛇足ですが、さっぽろ夏まつりが今度の金曜日から始まりますね。実行委員会がパンフレットをつくっているのですけれども、その裏に、環境局の小さいコラムみたいなものがあって、廃棄物のごみの件について触れています。

先ほどの動画にもありましたけれども、日本全体ではこのぐらいの食品ロスがあって、お茶碗に換算すると114グラムぐらい捨てていることになりましてということが小さい記事で紹介されていました。

みたいなことが、小さい記事で紹介されているのがあったのです。そういうのも目についたので、そういう話題をご紹介します。

二つ目の観点は、先ほどのバスの関係です。

先ほど、今はこういう状況でなかなか難しいといいますか、希望校は増えているのだけれども、全ての希望はなかなかかなえられないというご紹介がありました。それについての工夫は、来年に向けて事務局のほうでいろいろされると思うので言及しないですけれども、私が気になるのは、例えば、今年は、円山動物園へ希望校を送って行きましたというふうになっていました。では、なぜ円山動物園に行くのかというと、生物多様性について学びましょうというのが大きなテーマですね。学校によって取組の仕方は色々だと思いますけれども、本来的な趣旨から言えば、単なる社会見学とは違うと思うのです。

先ほどの動画にもあったのですけれども、学びで一番大事なことは、子どもたちが、これはどうしてこうなのだろうと、そういうことを知りたいというか、疑問を持つということがまず出発点で、それを大事にしてあげたいと思うのです。

それは、学校での座学だけではなくて、現地に行って学ぶことによって、その学びがさ

らに深められて、新しい発見や気づきがあるということが大事ですね。ですから、学校のほうで事前学習というか、それについていろいろな学びを深めて、実際に現地に行って、戻ってきたらいろいろな形で振り返りをする、そういうことがあって初めて効果が上がると思うのです。

それがないと、例えば、先生がワークシートを用意して、これについて動物園へ行ってチェックしてきてくださいねで終わったら、ただ受け身の学習で、子どもたちは、表面上は見ていますけれども、あまり学びは深まらないですね。

ということがあると思うのです。それは、私は自分でボランティアしていて、いろいろな小学生と相手をしていて、いろいろな社会見学にたくさん来るのですけれども、多くの子どもたちの様子を見てみると、そういう子が多いです。

ですので、環境学習の一環として、バスを借り上げて現地に行って学びを深めるということが本来の趣旨なので、そこら辺のことをもう一回見直して大切にしてほしいと思うのです。きちんとやっている学校もたくさんあると思いますが、そこら辺がなおざりになると、税金をかけてバスを借り上げてわざわざ行く意味があるのかということになると思います。

大沼会長 大きく二つあって、食ロスを給食と結び付けて、食育とか地産地消に結び付けてはどうかという話です。それから、校外学習は単なる社会科見学ではないということの実効性をもう少し持たせたいということです。

事務局からお答えいただけますか。

事務局（吉田教育委員会企画担当係長） 今いただいたご意見は、本当に大切な視点だと感じております。食品ロスに関しましても、学校現場において身近なところから考え始めるというのは非常に大切な機会だと感じております。

資料のインデックスの5番の「さっぽろっ子環境ウイーク」のところに資料としてあるのですけれども、中身を数枚めくると、別添1として、「さっぽろっ子環境ウイークエコアクションナビ」という資料を掲載させていただいております。

札幌市教育委員会としましても、大切なのは、子どもたちが問題意識を持って取り組むことだと考えております。学習の場面や委員会活動らの場面で子どもたちが問題意識を持って追究し始めるというところは大切にしていきたいと考えています。

そういう中で、先ほどの動画もありますが、ああいったものを起点にしていただきながら、例えば、給食のフードロスですね。こちらにも記載があるのですけれども、自主的な活動、いわゆる委員会活動とか、子どもたちの自発的な問題解決の中で、残量に注目しながら減らすことができないかというふうに動き出すとか、栄養教諭等に関する指導等ももちろんあると思います。また、教科等を横断しながら、地産地消とか、栄養面からも給食を残したら駄目だよというところのアプローチなど、やはり様々な視点からしていくことが大切だと思っております。

何度も繰り返しますが、大事なのは、やはり子どもが問題意識を持って取り組むことだ

と思いますので、そういった展開といいますか、そういった活動が充実していくように、札幌市教育委員会でも発信を続けていきたいと考えております。

大沼会長 先名委員、お願いいたします。

先名委員 私も、小学校と中学校の子どもがいる保護者でもありますが、その視点で見ていると、SDGsは、今だと子どものほうがよく学んでいて、よく知っております。知っているだけではなくて、行動に移っています。企業は逆に、知っているのか、知っていないのか、もしくは表面上だけ活用して、それをイメージとして動いている企業もあるかもしれません。それを紐づけするところまでは世の中できてきていますけれども、実際に何の行動をするか、何をしたかというのがなかなか見えてこないというのが私の肌感覚です。

保護者は、子どものほうがふだんの生活で口にして行動に入っていますので、例えば、担当する東区PTA連合会主催の親子ふれ合い事業では、札幌市教育委員会さんのお力を借りて、保護者と子どもで学ぶSDGsのツアーも今年は開催して、親が子どもから教えてもらうような環境で動き出そうとしています。

そのときに、こういう教材と一緒に持って、そこで学べる、より活用できるようになっていたらいいなと感じました。

そのときに、これからの教科書は、ほぼほぼ教科書の中に2次元コードが入って、それをタブレットで読み取ると、その子が興味を持ったときにより深掘りできるように動画で見られる状態になっています。

今は親も99%はスマホを持っていますので、スマホで2次元コードを読み取って、大人も一緒にその動画の深掘りの資料を見られるように、うまく連携ができたらいいなと感じました。

今、現場では、先生が少ないと言ったら語弊がありますが、本来の仕事に集中できる環境ではないです。ほかの仕事をカバーしつつ学校を運営してくださっていますので、その状況の中でできる範囲で一生懸命動いてくれているのは、保護者としてもよく存じておりますし、応援したい、応援団でいたいと思っておりますので、今度は親のほうも巻き込んでほしいと思っています。

地域というキーワードがたくさん出てきますけれども、地域とは誰なのか、誰にメッセージを送って誰が動けばいいのかということになっていくと思います。

うちの町内会も、例えば派遣講師をもらうときに、その情報を、今、町内会の会長は80代だったり、若くても70代だったりしますので、その方々に果たして今回の資料を送ったところで活用できるようになっているのかということも、これからより丁寧な説明が必要になってくると感じておりました。

また、給食のことも少し出ていました。

東区で旬になったら、札幌黄のタマネギを使った給食ウイークとして、それを機にタマネギの勉強を重ねて授業をしたり、毎週、いろいろアレンジされた札幌黄の給食が出てき

ますので、子どもたちは、地元に対して理解を示し、自分たちが大人になったら役に立とうという、その辺の意識の種は確実にまかれていますので、それを継続できるように、我々大人や札幌市、それから企業が背中を押して応援してあげられるような環境を何とかつくり上げられたらなと感じております。

大沼会長 学校、子どもから親だけではなくて、地域とか企業へと展開できたらいいなという幾つものヒントをいただいたと思います。

まだご意見あるかと思いますが、半分しか終わっていないので、先のほうまで説明いただいて、もし時間があればまたこちらに戻ってきたいと思います。

それでは、事務局から、後半の(3)(4)のご説明をお願いいたします。

事務局(谷内環境教育担当係長) では、「(3)環境教育・環境学習の場と機会の充実」で、9ページからになります。

まず、ア・イは環境プラザの事業になりますので、説明をよろしく申し上げます。

事務局(宮西環境プラザ主任) 「ア 学習支援等」につきましてご説明いたします。

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、また、教材の貸出しなど、市民の環境活動の要望に合わせた学習支援を行っております。

令和4年度は、月に1回、「あそびバ!エコプラザ」において、ゲームや紙芝居、工作体験会などを利用した環境学習の支援事業を行いました。

今年度は、見学ツアーの一部として、SDGsに関連する見学プログラムを新規作成し、提供していく予定をしております。

続きまして、「イ 各種講座等の実施」においては、令和4年度は、環境プラザで毎年開催している幼児親子向けの自然遊び体験事業を、札幌市定山溪自然の村と連携し実施をしております。

秋と冬に日帰り編と宿泊編を2回ずつ実施しまして、子どもたちが全身で自然を体感するプログラムの提供を行いました。

今年度も、引き続き定山溪自然の村と連携し、今年度は、新たに夏を加えて、全て日帰り編の全6回を実施しております。7月17日に定山溪自然の村の夏編が終了しております。8月26日には北大構内を使った自然体験会を行う予定です。

通年利用している北大構内と自然の村のフィールド以外には、今年度の秋に中島公園もフィールドに加えて、新しい場所での自然体験活動の提供を予定しております。

事務局(谷内環境教育担当係長) 「ウ さっぽろこども環境コンテスト」についてです。

これは、小・中学生が日頃、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストとして、平成20年度から実施しています。活動の発表を通じて、周囲の子どもたちのほか、大人たちにも活動の輪を広げていくことを目的としています。

令和4年度は、G7札幌大臣会合の開催記念事業として実施いたしました。

こちらは、新型コロナウイルス感染症対策のため一堂に会してのステージ発表は困難な

ことから、昨年度は、札幌市環境プラザを本部として、各発表団体の会場をリモート（Zoom）でつないで、本部の司会進行のもと、オンライン形式で各団体に発表していただく形式として実施し、発表の様子は、後日、審査結果とともに札幌市ホームページに公開しました。

発表の団体は表のとおりですけれども、コロナ禍のためにそもそも活動自体ができなかったり、特に小学校において、土曜日に発表会場のために学校を開けるのは厳しいなどの理由で、特に小学校からの参加は1校と、少ない状況でした。

今年度は、コロナが落ち着いたということもありますし、なるべく多くの団体が参加できるような形式での開催の検討を進めていきたいと思えます。

次に、「（４）普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し」について、最初にアとイを環境プラザから説明いたします。

事務局（宮西環境プラザ主任） 「ア 環境プラザホームページ等」についてご紹介いたします。

環境プラザでは、先ほどご紹介した講師派遣や貸出し教材、事業などについてホームページで情報提供を行っているほか、フェイスブックや令和4年度から運用開始したインスタグラムでの投稿、「エコチャン！！ - 環境プラザYouTubeチャンネル」での動画配信で情報発信を行っております。

ホームページのアクセス件数は、令和4年度は106,612件でした。

続きまして、「イ 環境中間支援会議・北海道の取り組み」についてご紹介いたします。

環境中間支援会議・北海道は、行政や地域など、様々な組織との間に立って情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議です。環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザが連携して、北海道内における様々な環境活動の支援を行っております。

また、環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして定期的に参加される会議に参加していただいています。

なお、ホームページ「環境ナビ北海道」において、環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報など、一括にまとめて配信を行っています。

事務局（谷内環境教育担当係長） 次に、「ウ 環境広場さっぽろ2022と環境広場ほっかいどう2023の開催」についてです。

環境広場さっぽろは、子どもたちを主たる対象に、環境教育を目的とした「みらいを想う総合環境イベント」です。

平成30年度と令和元年度は、札幌ドームを会場に開催しました。令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、札幌ドームでの開催を見送り、札幌ドームをモデルとした仮想空間を会場とするオンラインイベントとして開催しました。

令和4年度は、「環境広場さっぽろ2022」を、令和4年7月30日、31日の日程で3年ぶりに札幌ドームで開催しました。

今年度は、G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合実行委員会主催事業として、たくさんの方々の北海道民、札幌市民の方々に楽しみながら環境、SDGsに関心を持っていただくとともに、環境ビジネスの振興等を目的とした展示・体験イベント、「環境広場ほっかいどう2023」を、大臣会合の開催日に合わせて令和5年4月15日、16日の日程で札幌ドームで開催しました。

期間中の来場者は、資料にあるとおり56,199人と、予想を上回る多くの方々にご来場いただきまして、大変喜ばしい限りでございます。

次に、「エ 環境教育・環境学習ガイドの発行」です。

これは、札幌市環境教育・環境学習基本方針に基づいて、環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて、札幌市の各部局が行っている取組をまとめた環境教育・環境学習ガイドを毎年度発行しているものです。

市民への広報、情報提供に活用して、各取組への市民参加を促進し、環境教育・環境学習の一層の推進を図っております。

あわせて、札幌市各部局の環境教育・環境学習に対する意識を高めて、基本方針の趣旨に沿った事業展開を促す役割も果たしております。

ガイドでは、本日これまでに説明させていただいた事業を紹介しているほか、札幌市の環境教育・環境学習に関する取組一覧を掲載しております。札幌市ではどんな事業をしているのだろうか、こんな事業を探しているが、札幌市では行っているのだろうかなどと探すのに便利なものとなっております。

ガイドは、前回の推進委員会で皆様に配付したものが最新版で、今年度のガイドは8月から9月頃の完成を目指しているところです。

次に、13ページの「オ 倉本聡氏のメッセージ動画」についてです。

G7札幌の大臣会合の開催に当たりまして、ドラマ「北の国から」などで有名な、脚本家・劇作家・演出家である倉本聡氏より、環境に関する北海道から世界へのメッセージをいただいたことから、このメッセージを紹介する動画を作成しました。

この動画を、大臣会合前日の令和5年4月14日に開催した地元主催による歓迎のレセプションにおいて、参加したG7各国・招待国の代表団に向けて放映するとともに、後日、動画を札幌市ホームページに公開しました。

動画は、先ほど吉田係長から説明のあった、「さっぽろっ子環境ウィークエコアクション」の中で札幌市立小・中学校の児童や生徒に視聴してもらうなど、大臣会合をきっかけとする環境問題に対する札幌市民、北海道民などの関心を高め、行動の変化につなげるために活用していく予定です。

資料本体の説明は以上ですけれども、補足として1点、参考資料9の補足資料をご覧ください。ただければと思います。

参考資料9の「G7子ども行動宣言」です。

これは、北海道内5校の小学生が、大臣会合のテーマとなる脱炭素、環境保全などにつ

いて自らできることを、「G7子ども行動宣言」として取りまとめ、発表動画を作成して、大臣会合の会場などで放映したものです。

また、4月15日に行われたG7札幌の政府主催レセプションで、5校のうち江差町立南が丘小学校の児童7名が、参加国の大臣に向けて宣言文を発表した上で、宣言書を西村康稔経済産業大臣と西村明宏環境大臣に手渡しました。

また、「環境広場ほっかいどう2023」においても、発表動画の放映、宣言書の展示をしたほか、同校の児童7名が会場で発表を行いました。

補足資料については以上でございます。

ここで、先ほどお話しさせていただきました倉本聰氏のメッセージ動画を放映させていただきます。

長さは5分ぐらいですが、地元主催のレセプションで披露したものをそのまま放映しますので、最初にレセプションの出席者に向けた挨拶がありますのと、外国の方がいらっしゃったということで、ナレーションが英語であることをご了承いただければと思います。

それでは、お願いします。

[ 倉本聰氏メッセージ動画の上映 ]

事務局（谷内環境教育担当係長） 説明は以上でございますので、議事の進行をよろしくお願いいたします。

大沼会長 今ご説明いただいた（3）（4）について、どこからでも結構ですので、ご意見をいただければと思います。

伊藤委員 昨日だったか、一昨日だったか、ニュースを見ていまして、6月の平均気温が平年よりもプラス2.6度ということで、そんなに暑かったかなと思いながら、体が麻痺してきたのかなと思っているのですが、知らず知らずのうちに、本州などでも37度というのが当たり前を感じてしまっている自分がすごく心配です。今のビデオを見ながら、「そうだよな」と思いました。でも、小学生はどこまで分かったかなと思いながら、中学生もどこまで気づいてくれたかなという疑問は若干あるのですが、子どもたちの感性なら、そこそこ読み取れるところはあったのかなと思いながら見ていました。

さて、さっぽろこども環境コンテストについてです。

僕は数の話しかしないのですが、具体的にどれぐらい広まっていて、どれぐらい関心があるかというのは、やはり数でしか表しようがないのではないかと思うのです。何もやっていないとか、みんなやっていないのではないかという話ではなくて、みんなに分かってもらうとしたら、やっぱり共通の理解基準は数字しかないのではないかということです。別にそれでなければ駄目だと言っているのではなくて、みんなが周知して、例えば99%の人ができれば、もうできたのと同じですね。そういうことを考えていくと、どれぐらい出ているのかなと。

例えば、環境コンテストで、どういう取組をどの程度させるかというのは、やっぱりアイデアだと思うのです。

僕も中学校にいたのですけれども、中学校だったら科学部があったり、今はボランティア部があったり、委員会活動だってやろうと思えば環境コンテストに本当は参加できるのです。面倒くさいからとか、学校は大変だからとか、そうやってしまえば終わりなのです。みんな忙しいのです。「環境だけをやっていられるか」というのは当然だと思います。安全教育もやらなければならないし、あれもやらなければならないし、これもやらなければならないし、それはそうなのです。

ただ、倉本さんの話ではないけれども、ゼロカーボンを目指すのだったら、こんなにのんびりしていていいのかという思いが僕の中にはあるのです。子どもたちに啓発していくのであれば、そういうアイデアを出しながら、どんどん裾野を広げていくということが必要なのではないかと思っています。

今回の環境広場ほっかいどうには行きたかったのですが、仕事で行けなくてとても残念でした。

前日も言ったのですけれども、最終的には、市民全体が環境問題にどれだけ関心を持ってくれるのかということだと思います。もちろん、子どもたちを中心にお話を進めているのですけれども、先ほど先名委員がおっしゃられたように、今、町内会は高齢化して大変です。僕のところだって、先週の日曜日に、町内会でごみ拾いをといても、出てくるのは二、三人ですよ。若い人は全然出てきません。僕ら以上の年を取った人たちが出てきて何かやっている状況です。その辺も啓発していくとしたら、若い人をどんどん巻き込まないと駄目だろうという気持ちがいっぱいあるのですね。

だから、どうしても数字が出てきてしまうのですけれども、そういう中で、今やっているぞというのは分かります。そのために委員会を開いて、こんなこともあんなこともやっているということは百も承知で、僕もあえて余計なことを言っているのです。

極端なことを言うと、何でもそうですけれども、半分を超えたら必ずそっちへ行きます。日本人の場合は、特に半分以上の人がやったら、「みんなやっているからな」になるのです。

そう考えると、いろいろなところでどうやって啓発していくのか、今後、私も何かアイデアを出していきたいと思います。

大沼会長 倉本さんが「Critique or creation , which matters most to you? (批評と創造はどちらが大事ですか)」とおっしゃって、僕はあれが一番胸に刺さりました。

まず、こども環境コンテストの参加校について、特に小・中学校の数を今後どう増やしたいのか、先ほどご説明があったと思うのですが、谷内係長にご説明いただいて、環境広場については全体でという感じでしょうか。お願いいたします。

事務局(谷内環境教育担当係長) さっぼろこども環境コンテストは、学校外団体の部、小学校の部、中学校の部とあって、学校外団体の部は昨年4チーム参加していただい

るのですが、小学校とか中学校の部は1チーム、2チームでしたので、もう少し増やしていきたいと思っています。

先ほどの説明の中でもお話ししたとおり、コロナ禍だったということもあって、活動自体があまりできなくて、発表できるような状態ではなかったというところもあるのかもしれませんが、それぞれの学校で地道に取り組んでいるものの、コンテストに出づらいつい部分もあるのではないかと考えております。

先ほどお話ししたとおり、例年コンテストを土曜日に開催していて、前はZoomで会場同士をつないだのですけれども、土曜日に学校を開けて発表することが難しかったり、その前まではずっとステージ発表をしていたのですが、土曜日に引率して小学校の人たちに参加してもらうのが厳しかったりということがあつたのではないかと考えております。

ですから、なるべく多くの団体が参加できるように、一つの方法としては、どうしても当日引率するのが難しいという学校があるのであれば、事前収録したものを当日発表できるようにするとか、そういった工夫をしてコンテストに参加したくてもできないといった障壁をなるべく取り除くことで、多くの団体が参加できる形にしたいと思っていますし、それをもって、これだけたくさんの団体が活動していますよ、ということを見えるようにしたいと考えております。

大沼会長 当日の引率なり学校を開けるなりがいずれもご負担なのであれば、できるだけ負担のない形で、ビデオをあらかじめ取っていただくなどをしていいと思います。

それから、私がこのときに伺った話では、それまでは熱心な先生がいらっしやつて、熱心な先生が生徒たちの背中をうまく押してくださつていて、コロナ禍でなかつたときは、先生が異動された後もきちんと引き継がれていたのだけれども、コロナ禍になつて先生が異動した後に引き継がれなかつたということもあつたようです。なので、そこで切れてしまったものを戻すこともできたらいいのかなと思っていました。

でも、数字が大事だというのは伊藤委員がおっしゃつたとおりで、そういう意味でG7はすごいですね。環境広場の五万何千人というのはすごいことだと思いますが、これが来年すごく寂しく見えてしまうのが一番怖いですね。数字で怒られないようにするにはどういふことをしたらいいのか、ぜひ皆さんからもお知恵をいただきたいと思っています。

山本委員 先ほどご説明があつた、さつぱろこども環境コンテストの参加団体の話ですが、釧路でも同じようなことやっています。まず、Zoomで子どもたち同士をつないで、交流をしましょう、お互いに刺激を受けましょうということを目的にやるには、平日で学校が参加しやすい時間のほうが良いということをお先生方と話をし、4校をつないでやりました。各校が同じような学習をしているので、異学年も含めてやつたのですが、そこで刺激を受けてやつていくと、それは、学校が一番参加しやすいときに合わせた交流です。それを外部の専門家にも見てもらつて、コメントをもらつて、学習を高めていくということをやりました。

また、一般の人への発表の場をつくるとか、そこで発表することでまた学びを深めると

ということについては、先生に間に入ってもらって、保護者とのやり取りの中で、あくまで個人として参加してもらいました。学校外の団体が日中に参加できるのは週末だけでしょうから、そうした主体が参加しやすいスタイルと学校単位でやりやすいスタイルは目的を完全に分けてやられたほうが効果的なのではないかと思いました。

感想です。

大沼会長 学校がやりやすいときとなると、平日の時間も結構いっぱいいっぱいではないかとふと頭をよぎるのですが、かといって、土曜日もいろいろ大変だと思います。その辺の時間の作り方と、負担をかけないようにする方法と、数の集め方と、いろいろなことを考えながらできればと思います。

ほかにご意見はいかがでしょうか。

先名委員 私は、2020年度の環境広場さっぽろで、ある企業のブースの講師で参加しておりまして、様々なお子様とご家族連れとともに、Zoomを使ってイベントを開催いたしました。そのときの課題は、ブースにたどり着くまでが大変複雑だったということです。ホームページから申し込んであったブースにたどり着くまでが複雑で、実はたどり着けなかったご家族もたくさんありました。

便利な道具ではあるのですが、まだまだ使い慣れていないご家庭は、参加したいブースにたどり着けないまま終わってしまったということがあったのですが、もうそれから3年たちましたので、その後、アンケートの中にZoomでは入りにくかったというご意見はなかったでしょうか。

大沼会長 アンケート、もしくは参加者の声があれば何かありましたら、事務局からお願いします。

事務局（阿部環境政策課推進係） 環境局環境政策課の阿部と申します。

今日は、お忙しいところをありがとうございます。

私は、環境広場さっぽろ及び今年度の環境広場ほっかいどうを主に担当していましたが、今、委員からお話があったように、まず、2020年と21年度はコロナでリアル開催ができなかったということで、札幌ドームを模したバーチャル会場で開催しました。

ただ、私はそのときにまだ環境局に来ていなかったもので、引き継ぎは受けているのですが、ご指摘のとおり、動作が重いとか、案内をいろいろ散らしたのですが、そこまでたどり着けないというお声をかなりいただいたと聞いております。

そこで、昨年度、2022年度は札幌ドームでの開催に戻して、かつ、コロナ禍でありましたので、Zoomのオンラインのセミナーも一生懸命やったのですが、ご指摘のとおり、やはり、オンラインでいろいろやることに慣れている方が多い反面、パソコンのスペック的とか、予約したのだけれども、当日、うまく入れないとか、必要な手順をしていなかったという声もあったことを運営していた事業者から聞いております。

今年度、環境広場ほっかいどうは、G7の実行委員会が主催に変わってしまったのですが、来年度以降、環境広場さっぽろとして、環境局としてしっかりやっていきたいと思

ております。

当然、環境広場さっぽろで札幌ドームに来るには、お父様、お母様と一緒に家族連れで来ていただくというのですが、それがなかなかかなわないお子様もいますので、ウェビナー的な部分は力を入れていきたいと個人的には思っております。

その案内やリマインド的なところは、札幌市の環境局として、来年度にできるとなった際には、業者のほうともきちんとしてすり合わせをしたいと思っております。

反省としてはもう共有をしておりますので、いかにそういったことにならないかというところは検討してまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

先名委員 分かりやすくご丁寧に、ありがとうございます。

大沼会長 ほかにいかがでしょうか。

野崎委員 ずっと考えていたのです。さっぽろこども環境コンテストと、先ほどの久保田委員の家庭に広げる方法ですね。そこで、まとまっていないですが、思いつきの話です。

まず、さっぽろこども環境コンテストです。

僕は今、管理職なので、教員の勤務時間などについては自分でもすごく考えていると思うのです。余り長く残らないように、先生方はいろいろな仕事をやっています。それこそ、長時間勤務などが言われており、今はなり手が少なくなってきたと言われている教員です。この勤務時間の中でとかいろいろなことを考える中で、今の環境コンテストの表彰のされ方だと、なかなか教員を派遣できないと思っております。土曜日に行ったりですね。

僕が以前に勤めていた学校でも受賞しましたけれども、そのときには放課後に子どもを連れて引率していきました。しかし、今の時代ですと子どもが事故に遭ったらどうするのだろうか、いろいろなことを考えなければいけないのです。

そうだとするならば、先ほど、山本委員がおっしゃったように、例えば、児童クラブで児童会館の先生でやっていらっしゃる方、そこはそこで外部団体でやって表彰していただければいいけれども、小学校、中学校であれば、実はいろいろな取組をみんなやっているのです。自分の学校だったら、発寒川に行って環境のことをやっていたり、学校ではいろいろなことをやっていたりします。

ですから、コンペみたいな感じで校長先生たちが授賞式に行ってもいいですし、子どもたちの喜びの声をビデオでもとか、いろいろな方法を考えてもいいと思っております。大切なのは、子どもがここに行って表彰を受けることではなくて、やっている取組を広げることと価値付けすることだと思うのです。僕たちのやっていることはすごく意味があるのだとか、それが広がるのが大切だと思っていて、この在り方も、うーんと考えていたというのが1点です。

もう一つは、久保田委員が言っていた日常です。子どもたちは意外とやっているのです。先名委員も言っていましたけれども、意外と聞いたら子どもたちは知っていたり答えられたりするのです。例えば、それがお家にあるとどうだろうということで、夏休みエコライフレポートですが、ゼロカーボン都市を目指そうと。これを冷蔵庫に貼っても、文字がい

っぱいあるので、お家の人にはあまり届かないかもしれません。

例えば、ここにフードロスと書いてあったらどうなのだろうとか、いろいろなことを想像していました。裏面に日付を書き添えて、この中で丸をつけたり、バツをつけたり、今日はどうだったかと振り返る。これを仮におうちの人と一緒にやっていたらどうでしょう。低学年からやっていたとするとです。平成19年からだから、もしかして、今の保護者で環境に対する意識の高い保護者が出てくるかもしれません。これを子どもと保護者と一緒にやることで、環境に対する意識や色々な考え方が家庭に広がるのではないのでしょうか。

今はタブレットになったので、紙物はどうかということもありますが、市民のみなさんに学校が一番求められているのは、学校で面白い授業をきちんとやってよということではないのでしょうか。プラス、授業の楽しさが子どもたちの言葉で、各家庭で語られたりすることが一番だと思います。子どもの口から学校での学びの内容が家庭に広がるような仕組みが大切かなと思っています。この会議に出るたびに学校に対する皆さんの期待感をいっぱい感じて、よし明日頑張ろうという気持ちになって今日は帰るわけです。これからは学校は頑張っていきたいと思っています。

先名委員 今のお話を伺って、日常の中で学ぶことと学び続ける姿勢を大切にしてほしいということを学校も子どもも周りの地域も家族も持てるようなメッセージを常に打ち続けるしかないのかなと感じました。

大沼会長 昔、さっぽろこども環境コンテストのポスターもやっていた時期がありました。大きいポスターを1枚つくってもらって並べるだけだったら、当日来られなくても、空き時間につくって出してくださいということもできると思います。あれが10枚くらい並んでいるだけで見比べがすると思うので、発表するというだけでいいかなと思いますし、やっていることが大事だと思いました。子どもたちが自分たちのやっていることはこんなに大事なのだと思えることが大切ですから、そういうやり方もありかなと思いました。

石澤委員、いかがでしょうか。

石澤副会長 昨年12月にこの会を持った際に、G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合が4月にあるというお話がありました。その時、開催期日が迫っている、と感じたことを覚えております。環境教育は本来であれば生涯教育であると思いますが、しっかりと環境を見詰め直す機会として、この会議の意義や思いを、教育委員会が子どもたちに向けて発信してほしい、という願いもお伝えしたところでした。

その後、4月にDOTSUにて、高校生によって動画が作成され、それが各校に向け配信されたという動きを知り、しっかりと取り組んでくださったのだと思っています。

今日、その動画を拝見いたしました。子どもたちが今後も、この動画に触れる機会があることを願っております。

そして、G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合の開催時期に合わせて、いろいろな

イベントが催しされ、たくさんの市民の皆様にお越しいただいたこととお聞きしました。G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合は、札幌の環境を見つめ直す、素晴らしい機会になったことを実感いたしました。効果的な発信であったと思うとともに、本日、この推進委員会に参加し、さらに効果的なイベントのあり方等を話し合ううちに、今、再構築をする時期に来ているのではないかと感じました。

様々なイベントや環境教育を支える副読本の作成を何十年間も続いてきているわけですが、例えば、教科書のデジタル化が進んでおり、検索が簡易になっている他、QRコード等で情報が配信されているように状況になっております。副読本も冊子として作成され教室にずっと置いておくのではなくて、子どもたちに配布されているクロムブックの中に、アプリやコンテンツとして整備され、子どもが調べたい情報として活用されることを望みます。お時間はかかるかもしれませんが、製本代をIT業者などに少しシフトして、今の時代に合った活用の資料としていくのがいいと思いました。

実現しますと、家庭科や社会科では、3Rのようなリサイクル的なことも学習していますので、クロムブックを開いて環境を検索した時に、子どもたち各自が欲しい情報を札幌市の情報として素早く調べられます。副読本としてまとめられた情報は、活用される機会がさらに増えることでしょう。得た情報をもとに、実際に札幌市が委託し運営しているリサイクルプラザ等に見学に行くなど、生きた学習に広がるといいですね。

また、札幌市の学校は、食品ロスも積極的に取り組んでおります。他の市町村の給食は、センター方式で提供しているところが多いため、栄養教諭はそんなにいらっしゃらないのですが、札幌市はおおよそ2校に1校の割合で、栄養教諭の先生がいらっしゃって、栄養教諭が配置されていない子学校にも、栄養教諭の先生がご指導に行かれます。その際に、栄養的な内容はもちろんで、食品ロスや地産地消についても、指導してまいります。ロスしたものをただ捨てるわけではなく、肥料として活用して、その肥料を学校に配布して、子どもたちが育てる野菜づくりに活用しております。そういうような環境的なリサイクル的取組も行っていますし、子どもたちには発信されています。

私は家庭科が専門なのですが、家庭科の学習指導要領には、Aの家族・家庭生活、Bの衣食住の生活、Cに消費生活・環境が内容として示されております。学習する内容の一つとして環境があり、しっかりと学ぶこととなっております。

現在、学校は課題探究型の学習を進めております。知識を学ぶだけでなく、自分がどう行動するかとか、自分で問題をどう解決していくかという形の授業を創り上げているわけです。変化の激しい社会を子どもたちが切り開くためには、問題解決能力を高める学びを進めることが大切です。現在、環境を学んでいる子どもたちが、将来、札幌市・北海道、さらに日本・地球の環境やSDGsを考え行動できる環境市民・札幌人として活躍できるよう、これからも教育委員会には課題探究型の学習の充実を進めていただきたいと思います。

改めまして皆様のご意見をお聞きしながら、令和5年度は、G7をきっかけに、再構築を考える年度と位置付けていくことが、一つの方法と感じました。そして、札幌市には、

いつも子どもたちの環境教育にお力添えをいただいている、と感じた時間となりました。

大沼会長 非常にきれいにまとめてくださり、ありがとうございました。

最後の課題探究型というのが今日の皆さんの全てを語っていると思いますし、そのためにいろいろなことを再構築すると。コロナ禍のおかげで、いろいろなデジタルとかオンラインの教材も発展することができたし、オンラインで配信するというのもできるようになりましたので、その利点はきちんと使いつつ、一方で、足で、手で、さわる、触れるみたいなものは失ってはいけないということで、その再構築について皆さんでいろいろ知恵を出しながらということだと承りました。

山本委員 すみません。今日お願いしようと思ってきたことがいくつかあったので、お話しさせてください。

まず、(1)ウのエコライフレポートですけれども、休みに入ると娘がずっと持って帰ってくるのですが、娘に分らないことばかり書いています。少なくとも低学年から中学校まで振り仮名が振っているかどうかだけの違いというのは、ちょっとどうかなとずっと思っていました。取組も含めて、学年に合わせた理解できる内容にしていきたいと思います。

高学年になると親と一緒にやらないですけれども、低学年の子だとやりたいと言います。何をしようか、家庭でのリーダーとしてこれとこれをやろうかと保護者も児童に働きかけやすいような、いろいろな制約があると思うのですが、そういうペーパーにしていきたいと思います。

数を追っていかれるのも分かるのですが、質の充実を目指していただきたいということが一つです。

また、探究学習のお話がずっとありましたが、環境教育リーダーの派遣制度はスポットでの講師しか対象にしていないような書き方ですけれども、僕は学校の先生とすごくいっぱい話をしながら授業づくりをしているのですが、探究学習こそ、外部の人の力がすごく大事です。ですから、取りまとめていく段階、発表で児童が困って、先生もどうしたら一歩進めるかと悩んでいるときにも環境教育リーダーは使えますよという形で打ち出していきたいと思いますということが二つ目です。

それから、指導者向け研修が児童会館職員を対象に行われていますが、児童会館も環境プラザも女性活動協会が運営されているので連携しやすいこと、公的な施設に務める職員を対象にしているということは分かります。私の娘は2人とも民間の児童育成会へ行っていまして、親御さんたちともすごく話すのですが、こだわりを持って行かせている方が多くいます。

こうした事業に民間の学童は取り残されている感覚がすごくあります。子どもに対しても、すごく真摯に指導に向き合ってくれますので、そういうところの指導員にも、質の向上といいますか、人材育成を重点的にやってもらえたらと思います。公的なところとは登録児童数が違うので、指導員は親ともすごく話すのです。20人くらいの規模でやってい

るところが多いですから、そこを起点に親のほうにも伝わると。

発表もそうですけれども、釧路で連携している学校では授業参観のときに児童の成果発表をやっています。探究学習もいろいろな人が関わりながらやるので、子どもが一生懸命やるのが親に伝わるのです。

最後に差し出がましいですが、探究学習を浸透させていくことで、今日出たお話はどんどん解決に向かうのではないかと感じました。

お願いばかりでした。

大沼会長 とても貴重なご意見をいただきました。学校の先生や現場の人たちだけではなくて、リーダー派遣とか、技術者研修とか、外部のアウトソースを学校もうまく使っていただきたいし、市も、公的なところだけではなくて、私立の民間の指導員というところにも手を伸ばしてあげて、今はどこも人がいなくて忙しい中で、そういった人をどんどん活用しましょうという非常にいいご提案をいただいたと思います。それもぜひ有機的にやりましょうということかと思います。貴重なご意見をありがとうございました。

私の司会が拙くて時間が超過してしまいましたが、最後に事務局にご連絡等をお願いいたします。

事務局（飯岡環境政策課長） 大変貴重なご意見をありがとうございました。私はこの場に初めて出ささせていただきましたが、しっかりと受け止めながら、教育委員会、学校現場、委員の皆様いろいろな意見をいただきながら環境政策を進めてまいりたいと思いますので、引き続きご協力をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、事務局からの最後のご連絡でございますが、次回の第2回目の推進委員会につきましては、例年のとおり、12月から1月頃の開催を予定してございます。

時期が近づきましたら、また日程調整も含めましてご連絡を差し上げますので、どうぞよろしく願いいたします。

### 3. 閉 会

大沼会長 それでは、以上をもちまして、令和5年度第1回札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を終了いたします。

本日は、ご多忙の中をご出席くださり、活発なご議論、また貴重なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

以 上